

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320018

研究課題名(和文) 青年知識人の自己形成と宗教 近角常観とその時代

研究課題名(英文) Modern Buddhism and youth: Chikazumi Jōkan and his age

研究代表者

岩田 文昭 (Iwata, Fumiaki)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00263351

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本精神史と近代仏教との関係に新たな光をあてることを目的として、岩田文昭を研究代表者として、碧海寿広、谷川穰、吉永進一、岩田真美を研究分担者とする組織のもとで研究を遂行した。私たちは、真宗大谷派の僧、近角常観(1870-1941)の布教の本拠地であった求道会館(東京都文京区本郷)に残された一万通に及ぶ書簡をはじめとする資料を分析した。この分析をもとに、古澤平作、嘉村礒多、宮沢賢治、三木清など知識人青年への近角の影響を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The project “Modern Buddhism and youth: Chikazumi Jōkan and his age,” organized by Iwata Fumiaki (Representative), Omi Toshihiro, Tanigawa Yutaka, Yoshinaga Shin'ichi and Iwata Mami, has successfully revealed the relationship between Japanese intellectuals history and Buddhist history. We have analyzed approximately ten thousand documents including correspondences found in Kyudo-Kaikan, the missionary precinct of Chikazumi's, which have proved Jōkan's influences on contemporary intellectuals; psychoanalyst Kosawa Heisaku, novelist Kamura Isota and poet Miyazawa Kenji and philosopher Miki Kiyoshi

研究分野：宗教学

キーワード：近代仏教 真宗 清沢満之 阿闍世コンプレックス 嘉村礒多 宮沢トシ 三木清 武内義範

1. 研究開始当初の背景

真宗大谷派の僧侶、近角常観(1870-1941)は、明治末から昭和初期に旧制高校や帝大、とくに一高・東大や二高などを中心に青年知識人に大きな影響を与えた。世代的には、内村鑑三、清沢満之、西田幾多郎らとほぼ同年代に属する。近角は、東京本郷に求道会館という説教所と求道学舎という寄宿舎を設立し、多くの若者がその説教を聞きにきた。清沢と近角は親しい関係にあり、従来、近角の名が挙げられるのは、清沢を論じる場合にごく簡単に言及されるにすぎなかった。しかし、同時代の青年知識人への影響という点では、清沢を凌駕し、内村鑑三にも匹敵すると思われる。

従来、近角研究は本科研関係者のものを除いて、皆無といってもいい状態であった。この状況の中、研究代表者の岩田文昭は、大澤広嗣、碧海寿広らを研究協力者とし、「近代化の中の伝統宗教と精神運動 基準点としての近角研究」(2008~2011年度)の共同研究に取り組み、近角が中心となって発行した雑誌を電子情報化し、さらに、求道会館で発見した1万通に及ぶ書簡や、近角一家の記したノートなどの整理・分析に取り組んできた。

とはいえ、残された資料は膨大であり手つかずのものも多く、また近角の影響範囲は、哲学・文学・政治・精神分析・教育・社会事業などきわめて多岐の学問領域にわたる。そこで専門分野の異なる分担研究者をくわえて、このたびの研究を開始した構想したのである。

2. 研究の目的

本研究は、近角常観の思想・活動を解明するとともに、青年知識人がそれをどのように受容したかを探求し、近代日本の宗教と非宗教との関係に新たな光をあてることを目指すものである。つまり、近角研究を通して、近代日本の精神史・思想史を捉えなそうとするものである。

3. 研究の方法

(1) 近角の布教の本拠地、求道会館で発見された多量の資料(1万通の書簡など)の読解・分析を遂行する。そのために書簡の電子情報化をする。

(2) 近角常観資料サイトを構築し、上記の一次資料の目録や、近角が中心になって刊行した雑誌・新聞をネット上にアップして、近角研究の資料にアクセスできるように研究環境を整える。

(3) 上記(1)(2)の資料にもとづき、青年知識人(古澤平作・宮沢賢治一族・三木清など)の思想形成の解明や、日本近代仏教史における近角常観の思想的意義をさぐる。

(4) 近代仏教・思想史研究者をまねき、近角の思想・活動を広い文脈でとらえるように試みる。

4. 研究成果

(1) 1万通の書簡の電子情報化を完成させ、DVD2枚に収めた。また、資料の目録を作成した。

(2) 近角常観資料サイトを構築し、電子情報化した雑誌・新聞ならびに、上記(1)の目録をアップした。

(3) 外部から講師を招き、研究会を開催した。具体的には、平成24年12月に、末木文美士と中島岳志の講演会を開催した。平成25年3月の研究会で英国エディンバラ大学のC.G.Hardingによる、古澤平作と仏教との関係に関する発表を聞いた。平成25年12月には、栗原敦と片山杜秀の講演会を開催した。平成27年11月には、氣多雅子と蓑輪顕量の講演会を開催した。

(4) 科研主催の公開発表会として、平成 26 年 12 月に求道会館で、岩田文昭と碧海寿広の近角についての単著の合評会を行った。コメントータは、安富信哉と葛西賢太で、司会は、名和達宣であった。

また、共催として、国際ワークショップ「アジア仏教：複数の植民地主義と複数の近代性

第 3 回ワークショップ、京都」を平成 26 年 12 月 12 日に京都大学人文科学研究所で、12 月 13 日、14 日に龍谷大学大宮学舎にて開催した。ここでは、14 名の海外と岩田真美と碧海寿広とを含む、13 名の国内の研究者によって 20 の発表がなされた。会全体の進行を担ったのは、吉永進一で日本仏教の近代化過程をアジアや世界の仏教史の視野において議論するとともに、アジア各地の仏教の近代化の多様性の理解を深めた。岩田真美は近角常観も会員として参加していた万国仏教青年連合会という国際的な仏教青年会の活動について、明治 30 年代の東京を中心に起こりつつあった仏教の国際ネットワークの動きを解明する以下の発表を行った。“Takanawa Buddhist University's International Network: The Activities of the International Buddhist Young Men's Association” また碧海寿広は、暁烏敏を中心に読書文化と近代仏教に関する以下の発表を行った。“Modern Buddhism and Reading Culture: The Case of Akegarasu Haya” これらの発表によって、近角常観の背後にあった宗教文化について新たな知見を得ることができた。

(5) 岩田文昭と碧海寿広がそれぞれの単著を平成 26 年 8 月に刊行した。この二つは初めての近角研究に関する単著であり、本科研の代表的成果の一つである。そのため、両著の内容を以下に説明する。

岩田文昭『近代仏教と青年 近角常観とその時代』は全 12 章の二部構成で、第一部

では近角常観自身の活動・思想を論じ、第二部では近角に影響を受けた青年知識人について論じている。

第一部は、「近角常観の生涯と活動」と題し、本郷と湖北という二つの地をそれぞれ、「近代」と「前近代」の象徴とし、「前近代」を再編成して「近代化」に向かった常観の生涯とその宗教活動の要点を概略した。宗教活動の説明としては、常観が中心となって刊行した三つの雑誌・機関誌『政教時報』『求道』『信界建現』の説明をもとにおこった。その目次構成は、「第一章 本郷の求道会館」、「第二章 湖北の生地」、「第三章 仏教青年運動と回心」、「第四章 常観の政治活動：『政教時報』」、「第五章 常観の求道活動：『求道』」、「第六章 常観の説教の内容とそのスタイル」、「第七章 常観の結婚と家庭観」、「第八章 常観の宗門活動：『信界建現』」となっている。この第一部は、求道会館で発見した多くの資料に基づいた、はじめて本格的な近角の評伝となっている。

第二部は、「常観と青年知識人たち」と題し、近角の思想の特徴を示しながら、それが精神分析学・哲学・文学などさまざまな分野において展開していったさまを明らかにした。取り上げた主な青年知識人は、古澤平作、嘉村礒多、宮沢賢治、三木清、武内義範である。その目次構成は、「第九章 宗教と精神分析：古澤平作の阿闍世コンプレックス」、「第十章 宗教と文学（一）嘉村礒多の私小説」、「第十一章 宗教と文学（二）：宮沢賢治一族と常観」、「第十二章 宗教と哲学：三木清の宗教哲学」である。また、巻末には、宮沢賢治一族から常観宛の書簡の解題をし、求道会館で発見した、一九一五年の政次郎発の二通とトシ発の二通の翻刻を掲載した。

この研究によって、精緻な研究が進むことでかえって見えなくなっている、宗教と様々な学問分野との関係、学問横断的な関係があらわになり、近角を視点にすることで描かれ

る、近代日本思想史の新たな側面を示した。

碧海寿広『近代仏教のなかの真宗 近角常観と求道者たち』は、序章と終章を含め全8章の構成となっており、近角常観の思想・運動について宗教史的な観点から検証した。既存の宗教研究や日本思想史の知見を批判的に援用しながら、明治後期から昭和初期に至る近角とその信徒たちの活動の歴史的な意義を解明している。具体的には、序章で近代仏教研究の現状をレビューしその問題点や課題を抽出し、第一章で清沢満之に関する諸言説を分析することから近代真宗史研究の偏りや不足を明確にした後、近角の思想・運動に関する事例研究を積み重ねている。第二章では、近角の思想形成と宗教運動の展開を、そこでの宗教体験の重要性という観点から論じている。第三章では、近角の布教戦略の歴史的特質について、同時代のキリスト教の動向と関連させながら考察している。第四書では、近角の仏教論について、そこで頻出する「人格」概念に注目しながら分析し、また、同時代の他の宗教（仏教）言説との比較考察を行っている。第五章では、近代仏教のジェンダー的側面について再考するため、近角の女性信徒たちが表出した信仰の内実について検討している。第六章では、近角における国家的イデオロギーの問題について考察するため、彼が晩年に進めた大谷派の宗門革新運動を事例にして、そこでの仏教と国家に関する言説を分析している。終章では、本書で得られた知見を踏まえた上で、「伝統」と「近代」の交錯という、新たな視点から今後の近代仏教（宗教）研究の可能性を提示している。

本書は、近角の思想・運動の展開とその意味について、同時代の宗教と社会をめぐる状況と関連させながら歴史的に位置づけたこと、また、キリスト教からの「流用」やジェンダーといった、従来の近代仏教研究ではほとんど用いられてこなかった視点からの分析をそこに加えることで、新しい日本宗教史像を構築するための有益な知見を提供した。

(6) このほかの個別の研究では、吉永進一は、「明治期における精神療法の出現と浄土真宗大谷派系知識人との関係について」研究を進め、井上円了と桑原俊郎に見られる心理療法の脱呪術化と再呪術化、そして近角常観も寄稿していた精神療法雑誌『心の友』誌に見られる世俗化された宗教性について新たな知見を得た。また、吉永は平成24年12月に慶応大学で開催された第6回アジア医学史学会にて、次のパネルを組織し、C.G.Hardingとともに、近代日本における宗教と心理療法の関係について発表をした。Panel: Practices of Kokoro: Psychotherapy and Religion in Modern Japan。

さらに、谷川穰は、近角宛書簡の内容検討を試みる一方、近角の活動の背景となる明治期東本願寺の動向、さらには近角晩年期における教育と宗教の関係史についても考察を深めた。具体的には、求道会館の手紙の分析や国会図書館憲政資料室の近角発信書簡を調査した。

また、岩田文昭と吉永進一とC.G.Hardingとの共編著による*Religion and Psychotherapy in Modern Japan*を英国Routledge社より刊行した。この書により、近角の思想が近代日本の心理療法の歴史の中に占める位置が明確になった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

岩田文昭「三木清の宗教哲学」、『日本の哲学』、査読無、15号、2014年、97-114頁

碧海寿広「近代仏教とジェンダー 女性信徒の内面を読む」、『日本思想史学』、査読有、45号、2013年、101-121頁

碧海寿広「日本仏教における近代化の多様性 清沢満之と近角常観」、『龍谷大学アジア仏教文化研究センター2013年度研究報告書』、査読無、2014年、229-242頁

Ōmi Toshihiro “Twenty-First Century Research on Seishinshyugi”, Japanese Religion, 査読無, vol39, No.1&2, 2015年, pp.119-129

[学会発表](計16件)

岩田文昭「近角常観研究の現状と課題」、佛敎史学会第63回学術大会、2012年11月17日、大谷大学

岩田文昭「三木清の宗教哲学」、土井道子記念京都哲学基金主催シンポジウム「フランス哲学と日本の哲学」、2013年12月25日、京都ガーデンパレス

岩田文昭「近角常観の信仰運動の特色」、日本宗敎学会第73回学術大会、2014年9月14日、同志社大学

岩田文昭「近角常観の信仰運動の特色」、新潟親鸞学会第11回大会特別講演、2015年6月3日、新潟市江南区文化会館

岩田文昭「三木清の哲学と宗教」、三木清研究会平成27年度公開講演会、2015年6月27日、龍野文学資料館「霞城館」

岩田文昭「近角常観の信仰運動における近代性と前近代性」、2015年度日本宗教史懇話会サマーセミナー、2015年8月24日、ホテル三河海陽閣

碧海寿広「近代日本における仏教の変容に関する研究」、慶應義塾大学人類学研究会、2012年7月17日、慶應義塾大学

碧海寿広「近代日本の歎異抄・再考」、日本宗教史懇話会サマーセミナー、2012年8月27日、防長苑(山口県市町村職員共済組合)

碧海寿広「大正教養主義と仏教」、日本宗教学会第72回学術大会、2013年9月8日、國學院大學

碧海寿広「法主と国家 昭和初期における真宗大谷派革新運動をめぐって」、龍谷大学アジア仏教文化研究センター2013年度第6回近代仏教研究会、2013年12月11日、龍谷大学

Ōmi Toshihiro “True Pure Land Buddhism and Shintō in 1930s Japan”, Workshop: Combinatory Religious Practices in Japanese History, 2015年5月30日、ハイデルベルク大学

碧海寿広「近代仏教の「外」の真宗へ 近角常観研究からの展望」、第23回日本近代仏教史研究会、2015年5月16日、大正大学

Iwata Mami “The Encounter Between Buddhism and Modernity: The Response of the Shin Sect During the Meiji Period”, 『Cultivating Spirituality』出版記念シンポジウム、2015年6月26日、大谷大学

岩田真美「高楠順次郎の伝道活動 教育・メディア」、日本宗教学会第74回学術大会、2015年9月6日、創価大学

谷川穰「サドラーのリスト 1930年代初頭、ある宗教教育調査をめぐって」、京都大学読史会2015年度大会、2015年11月3日、京都大学時計台記念館

YOSHINAGA Shin'ichi “How the “Experience” was Experienced: The Debate over “Religious Experience” during Meiji 20s” IAHR, 2015年8月24日、エアフルト大学 国際学会

〔図書〕(計7件)

岩田文昭『近代仏教と青年 近角常観とその時代』岩波書店、2014年、331頁

碧海寿広『近代仏教のなかの真宗 近角常観と求道者たち』法蔵館、2014年、230頁

Christopher Harding, Fumiaki Iwata and Shin'ichi Yoshinaga eds. *Religion and Psychotherapy in Modern Japan*, 2014, Routledge, 318p.

谷川穰(共編著)『講座明治維新11 明治維新と宗教・文化』(明治維新史学会・高木博志と共編)有志舎、2016年、264頁

吉永進一・中西直樹『仏教国際ネットワークの源流』三人社、2015年、232頁

大谷英一・吉永進一・近藤俊太郎編『近代仏教スタディーズ 仏教からみたもうひとつ近代』法蔵館、2016年、280頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
近角常観研究資料サイト
<http://chikazumi.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩田 文昭 (IWATA Fumiaki)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00263351

(2) 研究分担者

碧海 寿広 (Ōmi Toshihiro)
龍谷大学・アジア仏教文化研究センター

ー・研究員

研究者番号：80710813

岩田 真美 (IWATA Mami)
龍谷大学・文学部・講師
研究番号：90610642

吉永 進一 (YOSHINAGA, Shin'ichi)
舞鶴工業専門高等学校・人文学科・教授
研究番号：90271600

谷川 穰 (TANIGAWA Yutaka)
京都大学・文学研究科・准教授
研究番号：10362401

(3) 連携研究者

()
研究者番号

(4) 研究協力者

クリストファー ハーディ (Christopher
Harding)